

<ワン・ポイント・レクチャー> こども未来コース(応用編)

第2回:子どものやる気を育てるメカニズム

年齢に関わらず、何か興味、関心があることに取り組むことが出来る状況にあっては、誰から催促される訳でもなく自然とやる気が起こり、主体的に取り組めるというのは当たり前のことです。しかし、何かしら不安や恐怖を感じている場合には、やる気はしぼんでしまったり失せてしまいますね。もちろん、不安や恐怖があっても、必ず誰かが側にいて見守ってくれているという安心感があれば話は別で、いろいろなことにトライすることが出来るようになります。

ただ、状況に応じて本能と超自我(現実離れしていても、生きていくために行動基準として取り入れたルール)とのバランスを取りながらいろいろなことにトライすることが出来るようになるためには、“自我”の発達が不可欠なんです。しかも、そのバランス能力(自我)は、子どもが自ら考え、行動を起こし、成功と失敗の体験を重ねていく中でしか身につけることが出来ません。

例えば、痛い思いをしてこそ、何故痛い思いをしたのか、どうすれば二度と痛い思いをしないように出来るかを考え、工夫するという能力を身につけることが出来るようになりますね。保護者から言われたことだけをしている子ども、保護者の顔色ばかりを気にしている子どもは、自分の言動の結果についての責任を自ら取ろうとはせず、保護者に責任転嫁をして済ませることが出来ますので、自我が十分に発達しません。

つまり、やる気は、自分で判断し、行動した結果に対して責任を取ることが出来る大人へと成長するためには非常に大切な要素なんです。そのやる気は、必ず誰かが側にいてくれる、見守ってくれているという安心感があれば自然と湧き出てくるものです。では、その安心感を保護者はどのようにして子どもに与えるか…ここで「ヤマアラシのジレンマ」状況に陥ってしまい、戸惑ってしまうのが普通の保護者です。戸惑って、解決方法を見いだす“やる気”を起こしてみませんか？